

■令和7年度桜川市病院事業運営評価委員会（R7.7.31開催）による評価概要

I 運営評価委員会概要

1 目的

桜川市病院事業の運営にあたり、さくらがわ地域医療センターの指定管理者による管理に関する基本協定や、事業計画に基づいた病院運営及び施設等の管理状況について点検評価し、適正な医療提供及び施設管理、さらには将来にわたる桜川市の医療提供体制の確保に資することを目的とする。

2 評価対象

（1）令和6年度さくらがわ地域医療センターの指定管理業務の取組状況・・・指定管理者

3 評価基準

評価記号	評価基準
○	協定内容が遵守されており、事業計画に基づく事業実施や取組状況や数値目標について水準を満たしている、又は期待以上となっている。
△	協定内容の遵守や、事業計画に基づく事業実施や取組状況に問題はないが、一部に改善の余地がある。
×	協定事項が遵守されていない、または事業計画内容が実施されておらず事業実施に支障があり、早急な対応が求められる。

4 評価委員

役職	委員氏名	役職名
会長	高橋 哲	桜川市 副市長
副会長	阿部田 聡	真壁医師会 桜川支部長
委員	中田 拓也	桜川市議会 文教厚生常任副委員長
委員	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
委員	古橋 伸夫	桜川市 代表監査委員
委員	岩渕 治仁	桜川市 市民生活部長
委員	斉藤 育子	桜川市 保健福祉部長

II 評価結果概要

	項目	評価対象事項	評価
1	医療機能		
	(1) 基本的医療機能	①適正な人員の確保 ②研修等の実施	△
	(2) 外来診療	①外来診療実績	○
	(3) 入院診療	①入院診療実績	△
	(4) 初期（一次）救急医療及び対応可能な二次救急医療	①救急受入実績	○
2	附帯業務及び地域医療連携		
	(1) 医療安全・医療倫理	①医療安全委員会と医療安全体制について ②院内感染対策委員会の開催状況 ③倫理委員会等の取組状況	○
	(2) 保健衛生事業	①健康診断、人間ドック等の実施状況	○
	(3) 災害発生時及び市民の健康危機発生時の医療	①災害時等対応への取組状況	○
	(4) 地域医療機関との連携・支援、地域医療全体の質の向上のための取組	①周辺医療機関等との連携 ②地域医療の質の向上のための取組 ③職場体験等の受入状況 ④訪問看護利用者数	○
3	施設等維持管理、その他		
	(1) 施設管理	①施設等の保守・点検の実施状況 ②施設等の修繕・改良等の実施状況	○
	(2) デジタル化への対応	①医療データベースの構築状況	○
	(3) 市民への情報公開や病院運営に関する市民参加の推進	①情報発信状況 ②ご意見の内容・件数 ③患者無料送迎状況	○
	(4) 医療法に基づく立入検査受検状況	①保健所による立入検査状況 ②厚生局による立入検査状況	○
4	病院経営		
	(1) 安定した病院経営	①収支状況（計画・実績）	△
【総評】 全体としては、基本協定及び事業計画に基づいた病院運営が図られているものと評価する。 外来患者数は、目標値を達成しているが、入院患者数が未達となっている。また、入院単価の減少が医業収支の減少に繋がっている。 医療スタッフの不足により、病床を埋められない状況について、改善を要する。 収支面においては、純利益は黒字を保ったものの、医業収益の大幅な減少が要因となり、医業収支、経常収支とも赤字となった。 今後、医療スタッフの確保や入院患者数の改善を図り、安定的な病院経営に努めていただきたい。			

○議案に対しての主な意見

1 医療機能	
(1) 基本的医療機能	・常勤医師の確保に加え、看護師や医療事務等のスタッフの確保も非常に厳しいなか、外来の診療日は前年度よりも増加しており、診療体制の維持について努力している。 ・人材育成について、看護師なら最新のスキルを身につけたり、事務スタッフならメンタル面をケアするような研修などに注力いただきたい。 ・病院経営を取り巻く環境は非常に厳しくなっており、他業種の賃金が上がってきているため、人材確保が難しい。診療報酬の上昇が中々追い付かないなか、医療提供体制を維持するには、行政からの支援も必要では。
(2) 外来診療	・計画値を達成しており、診療日数も前年度より増加となっているため、評価できる。 ・皮膚科や耳鼻科など市内で他にない診療科目を引き続き維持していただきたい。 ・外来患者数の実績値としては、ここ数年ほぼ横ばいでそれが上限値なのであれば、この数字の増加に固執する必要はないのでは。
(3) 入院診療	・病床稼働率が上がらない根本的な原因として看護師の人員不足があるため、充足するよう努めていただきたい。
(4) 救急医療	・さくらがわ地域医療センターが初期救急、西部メディカルセンターが2次救急という役割分担があるので、無理に2次救急を目指す必要はないのでは。
2 附帯業務及び地域医療連携	
(1) 医療安全・医療倫理	・インシデント、アクシデントについては院内で共有を図り、再発防止を図っていただきたい。 ・大規模な院内クラスタの発生がなかったことは、感染対策がなされていたと評価できる。
(2) 保健衛生事業	・健康診断等の件数は増加しており、市民の疾病予防、健康増進の受け皿として機能している。
(3) 災害発生時及び市民の健康危機発生時の医療	・備蓄物品の点検について、ローリングストックなど適正に実施していただきたい。
(4) 地域医療機関との連携・支援、地域医療全体の質の向上のための取組	・地域の医療機関との関係づくりを積極的に行っている。また、MRI、CTの共同利用件数も高水準となっており、地域医療の質の向上に貢献している。

3 施設等維持管理、その他	
(1)施設管理	・これから大型の医療機器の更新や、建物設備の更新なども大規模なものが出てくるにあたり、市と協議をしながら計画的な点検や運用を心がけていただきたい。 ・院内ネットワークについて、回線速度やトラフィックなどを見直し、適切に運用できるよう市と協議をしていただきたい。
(2)デジタル化への対応	・ネットワークの改善や、院内 wifi の整備など市と協議のうえ、必要があれば見直しを図っていただきたい。
4 病院経営	
(1)安定した病院経営	・純利益では黒字だが、医業収支の赤字が大きくなっている。市立病院として政策医療を担う立場を維持しながら採算性をどう保つか、難しいところではあるが努力されたい。